This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

YAMAGA YASUTARO PAPERS

FOLDER NO.
1-23

II. 16

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

4ヶ
2
カ、
ト
ゆ
ゆ
ゲ
(
(
(
野元夫人筆

さー — Dukhobor

一、移入年度とその當時の人口

一八九八ー一八九九

三家族のブカボ代表者は日ンドンのトルストイ宗拒者 Aylmer Maude なる人に伴はれて英国経由バンクーバ号に乗船一八九八年九月にC.P.R.副社長 Thomas Shaughnessy に面會に上陸モントリオールにて時のC.P.R.副社長 Thomas Shaughnessy に面會ブカボ移民に関して懇談してゐるが、實際上の大量移民は翌年一八九九年一月二十一日のLake Huronの八百名ハリファックス上陸を皮切りに第二回一月二十七日 Lake Superior 二千三百卅三名五月十日全部にて一千人卅四名五月下旬 Lake Huron 二千三百合計五千五百だがその後の小量入國も合めて大体七千人上陸してゐる

二、現在のブカボ総人口及B.C.州の人口

一九四。年頃約一万七千と称してゐるがその後の自然増加で現在一万八千位と考へられるそれ以外九四。年頃では約半数が最初の殖民地でサスカチワンを離れてB.C.州に移住して来てゐるが戦時中徴募及對で投票權のないB.C.州を比較的安全と信じやすく土地を賣拂てなお込んでゐるので現在では大半居ると云ても過言でないと信ず

三、宗團内に分派ありやその社會生活

あればその社會生活

宗派は Russian Orthodox church だが現在五分派に分れてゐる勿論宗教信念には変りはない Named Dukhobor Spiritual Society of Christ Independent,

Progressive Society of Dukhobor のおしで
彼等およびロシヤにある頃これら計画はこれに従い
リーダ Peter Verigan は「以後我々からは Christian Community
of Universal Brotherhood と自称すると宣言してから
以後この名称を使用しつゝこれら計画が
十八人の移住人の隊の一般きめでは随分と苦しめ
十年を以て支持二人に五十六十七人加ヨル流を制御
支持にしかはその地に設立すると随分の土地の
理由から園を設けたるに於いて各人個人所有の
土地を以て共有の土地を設立すると共に
生活を統一的にせんとの Christian community of Universal
Brotherhood Ltd. を設立して統治権にこれらの共同
生活の様に Peter Verigan はこの様に Named Dukhobor
に改めた Spiritual community of christ グループ

か出来て現生にて立てゐる　中には十弗を政府に支拂て
ゐるセクションの土地を私有した者も稍あり此等は一般カナダの
白人農家に混つて相當の私財を作てゐる英國王への忠誠と
見做ふ　Independent Doukhobor Society を脱して
又最近若い三千才以下の人で共産カナダの連中が Progressive
Society of Doukhobor を作てゐる
最後の Sons of Freedom は最も狂信的で他の派の穏にあきたらず
例の裸体行列を以て我等の残虐を販はし彼等の行動が全カナダを
表はしてゐるが如くに世人を思はしめる程である現生は當地の
ギルピン、ブリーアルト近郊クレストハ等に集團生活をし人意で
作った法律には信を置かずあく迄キリスト
の敎一に忠實な人をし現生の社會態勢を常に拒否する
行動に出でんとしてゐる幹部は申旋行された證狀カードの所持者は
少なくギルピン居住者の如きは全然兒童を學校へ送てゐるが
Lord of Freedom を（全）ツカおの前衛分子と見れば Spiritual
Community of Christ, named Doukhobor は中堅でこの派
に屬する者の一番多いこの派の者も現生はコロニー生活を嫌て
獨立の生計に入てゐるを者は隨分あるそれは日々に增してゐる　其その
周圍で農園を經營してゐるは殆んどこの派がズカだである
Independent 及び Progressive は他の派から Non-Doukhobor
と云はれる如く英王に忠誠を誓ひ他の派に比較して一番

政府の方針に従順である

四、二世の教育問題

現在の文化.教育は神の教へに反する 人殺しの戦争を奨励する」
教育の高い人間程悪事を行ふと云ふ、老人を絶対に変へない
Sons of Freedom は児童を公立学校に送らず近隣の学校
放火事件は従来から屡々でその為収監されたもの数知れず
ある. 尤もその他の派は児童も通学して居るが甚だ不熱心で
ある. 従えハイスクール.大学を卒へて居るのは極少数で移民の
初期にアメリカのクエーカー宗の好意でアメリカで教育を受け現在
サスカツーンで開業して居る弁護士 Peter G. Makaroff K.C. の如き
は既にクイニテりと見て居る、公氏は今次大戦勃発近サスカチワン
のC.C.F副会長を務めて居たのを見ても相当な人物らしい
その他に極少数の医師があるらしい

五、奇習裸体行列の意味

一つの抗議である 人間の生れる時神からは裸で授けられた
アダム.イブも誘惑以前は裸体であった 誘惑の後即ち人間の
堕落は遂に服装に依ってその醜をかくす手段とした 我々は
神の教に忠実なるに拘らず 喫煙飲酒の如き醜行をも四訓
せない人意の法律で我々を圧迫するなれば一切のものを差上げ
よう 我々は何等の恐怖行為はない アダム、イブの誘惑以前
に何時でも帰り得ると云ふのが彼等の主張である

五、三世のカナダ同化の可否

神の教にのみ忠實で現在の文明に反抗を持てるがその影響より隔絶する事は不可能である一名野菜主義者とも云はれる事である牛、鶏はおろか蜈蚣にても生命を奪ふ事はやかまし肉食をしなく これは他の生命を奪ふ事と主張する彼等だが現在では of freedom 以外の連中は殺生と喫煙、飲酒、賭博、肉食をやってある 然し人を殺す事即ちやかまし自己が殺される事であり又戦争の陰にかくれて悪を働く資本家、高官の手先になり神の所有である土地の奪取をする戦争に参加する事は最も罪悪であるとの見地から徴兵忌否

六、父祖の集団から脱した場合の父祖の態度

つかおは種族でなく宗教上の主義より結合した団体である從つかおの主張に共鳴それを實行すれば他國人でもつかおであり得る及対に現在つかおでも非つかおであれはそれはつかおでなくと彼等は云ふ。從来はコロニーを作成しこれに立籠つてゐたが漸次に独立して集團生活より離れる者が増してゐる。將来は全然集團生活をせなくなると思ふ集團生活を脱して一般白人の中に混つて生活すれば自然彼等が持つ異端的な考から遠ざかることこの点が風習に染まる事になる 然し独立生計者も白人と混つて生活はしてゐるが菜食主義禁煙禁酒。

徴兵忌避その他を比較的に遵奉してるので決して父祖の信念から離脱した譯ではない　けれども今次大戦には約三パーセントが応募してるし（アメリカから五ヶ年間に約七十パーセント応募と言われる）又父祖の考人を自ら犯人と称してこの國の風習に入ってみるばかりも可成ある　これ等に対する彼等父祖の態度は一應は非クリスチャン行動として批難なするが　人間なすべて公平なので他人の行動を判断する権利は何人にもない　自己が信ずるなれば彼等も又その生き方に真剣であれないと解釋して敢て追ふ事をしない　この考人は第四次に於ける私行に於ても挙から見れば奇異に屈する事も正気でやってみるしそれをヒステリカルに批難もしない

七、裸体行列以外白人社會の嫌ふ点

最近は彼等も相當の資産が出来たので余程改善はされてるが生活程度も低く非衛生で共産的な考は他人の物を盗る事も正気で悪風に働きに来ても持ち帰る事も生れた大陸気質は主私呑気に就働する。学務當局から児童の通学を矢の様な催促をしてもクレート四、五になれば退学さす親が多いし又その実で政府の政策に反対い社會的に協調精神が不足してる非同化であると認め嫌ふのである

Y. YAMAGA

移民政策の転換期

私は過去の移民政策の根本方針が如何なるものであつたか知らないが、過去世界各国に於ける外国人の生活の結果から見ると「出稼ぎ」の一語につきると思ふ。

日露戦争を一時に国を上げた日本民族に憚りながらテオドル・ルーズベルト大統領が時の日本大使に「貴国民は何時でも帰化権をやるから帰化をやうと言ふと「日本には外国に帰化をやうと云ふ国民は一人もない」と帰化権を絶対に

10 X 20

( ) Y. YAMAGA

たと言う話は、帰郷(後に)
て居た吾々には不敵外国人として扱われ
土地だんだものかんである

10 × 20

労資協調原稿

追はるゝまゝに

歌のけいこ

政府移民

戦争時代の

原稿

かきちらし